

園長だより

冬将軍が猛威を振るい、寒波は日本列島に居座り、日本各地に甚大な被害がでています。春が来てほしいと心の底から願わずにはられません。厳しい冬を越えたらきっと、今年の春は例年より素敵な春の訪れになることでしょう。

子どもにとっての劇活動

日々の保育実践が、
子ども達のものになるには④

発表会という名のもとで…

さて、おおぞら保育園では保護者の皆様に発表会という名でこの行事をお知らせしています。私は、発表会と言うよりも劇の会がしっくりときます。それには、日常生活の柱に劇の取り組みがあり、遊びと同じ質のものを目指したいという願いがあります。「自分達で楽しみながら劇の内容を作りだしてほしい」大人（保育者）主導から抜けだし、子ども達でかかわり、協力し、取り組んで欲しいと考えてきました。発表の為だけに練習するのではなく、子どもの育ちを期待できる活動として、劇の活動に取り組みできました。



当日にも胸を躍らせて

発表会当日は子ども達にとって大切な一日でもあります。当日までの過程がより大切と考えています。でも、ここにきて子ども達は当日に大きな期待を持っています。

他のクラスに見てもらい自信を得た子ども達、お父さん、お母さんにみてもらうとなれば「はりきらないわけがありません！」ただ、発表会という名のもとで大人がイメージしてしまう事は「しっかり、立派に、形になって」と連想する方も少なくありません。

おおぞら保育園では発表会と言っているものの、当日は日常生活を保育室からホールに移して参観していただくような気持ちでいます。

私達、職員は普段の姿を気持ちよく出せるような雰囲気を作るように心がけています。

劇中の言葉(台詞)はシンプルです。

それは、お話がみんなのものになっているからです。多くの言葉を語らずにも子ども達はお話を進められるからです。

でも、はじめてみるおとなには、伝わりにくいこともあります。目をこらし、耳を澄まし、ぐーっと集中してみてください。

ゆっくりと進められている劇も、時には、新幹線のように「ビューン」と速いテンポで進んでしまうこともあります。

「あ、れ、れ、もう終わっちゃったということもしばしばです。その反対もあります。

大道具の出し入れをしたり、いつものようにできなかつたり、子ども同士で見つめ合い、沈黙したりとゆっくりと進むことも

あります。

「これも子どもの劇です。」劇の中には音楽や効果音はほとんど入っていません。子どもの言葉と動きでつながれています。大人がみて、歯切れのよいテンポではありません。

でも、子ども達の世界ではよいリズムでやっているのです。

子どもの演じを目をこらし、耳を澄まし、ぐーっと集中してみてください。

いま、目の前にいる子ども達が、何を演じているのかストーリーをあたまたに浮かべながらみてください。

おとうさん、おかあさん、みんなの知っているおはなしです。

きっと、子どもの楽しさが伝わってくるでしょう



わらべうたについて思うこと

私は直接、子ども達にかかわりわらべうたをすることはありません。業界的に言うならば実践者ではないというのでしょうか。ただ実践者ではないから何も知らないというわけではありません。この園にきてから子どもたちの生活で大切にしている、わらべうたを見続けてきました。その良さを理解し、定着してきているわらべうたを今後も続けていこうと思っています。

わらべうたや音楽教育については度々、この便りで伝えてきました。

実践者ではないが故に不勉強では困ると自分なりにわらべ歌の書物をあさり読んだりもしました。自分なりにとは怖いもので「やったきになる」「勉強したきになる」と書物だけが本棚に並び、読んだものは少なからず、頭に入り、気が付くと情報過多となり、保育の現場からすると「面倒な園長」と化していることを反省しています。

子どもと保育士から学ぶこと

どんなに様々な書物を読みあさっても自分の身になること少なし、園長就任から見続けているわらべ歌の実践、先生方の学びの姿に敬意を示さねばならない。子どもの心を育て、人として大切にに関わり、仲間との関係性を育むことに大きな力になっている。合奏などの派手さはないものの音楽的教育の要素は多く含まれている。リズムをとる、拍をとる。子ども達にとって、今、歌えるであろう音域で適正にうたっている。仲間との協同もある。「一緒にやろう、やっている」という実感も感じられて、その取り組みを楽しめるようになっていく。

日々の先生の取り組みが少しずつ、確実なものになっている。

発表会ではわらべうたをおみせしますが本来は見せるためにもものではなく「遊び」のなかで行われるもの、先生方も苦労したと思います。でも、子ども達はいたって自然体、日常の営みが伝わってもらえたら幸いです。